



建交労

2020年8月31日 No.1

全日本建設交運一般労働組合 中央本部

2020年秋年末闘争・拡大月間推進ニュース

第22回定期大会開催、新年度方針を決定! コロナ禍を乗り越え、要求闘争・組織拡大を推進

8月29日(土)～30日(日)の日程で、建交労第22回定期大会を群馬県ホテル磯部ガーデンにて開催しました。主催者あいさつを行った角田季代子中央執行委員長は、「コロナ禍で新自由主義政策では国民の命もくらしも守れないことが明確になりました。建交労に結集しているエッセンシャルワーカー(必要不可欠な労働者)たちが安心して働けるよう、各現場で労働組合運動を展開し、組織を大きくしながら、国民世論に広げましょう」、安倍首相の辞任を受けて「新しい政権をつくるチャンスを迎えています。市民と野党共闘のとりくみをさらに強化し、9条改憲阻止・憲法を活かし、暮らしと権利を守る政治へ転換しましょう」と呼びかけました。



開会あいさつをおこなう角田委員長



新たに選出された新中央執行委員の面々

今大会は、コロナ禍での開催の為、会場内での感染防止を徹底し、大会日程を短縮し、参加規模を縮小した形で開催しました。大会初日の廣瀬書記長による2020年度運動方針等の提案にもとづき、1日目14人、2日目討論17人(文書発言2人含む)「計31人」が発言しました。

討論では「春闘など経済闘争の推進、組織拡大、職場争議のとりくみ、コロナ禍での要求闘争及び政治闘争の推進、反核平和

活動のとりくみ」など、各県本部・支部、業種部会や青年部の仲間たちが元気に語られ、困難な闘いの中でも、各職場、地域で労働組合の姿を見せるとりくみの重要性に確信を深め合い、運動方針は補強されました。財政方針案など最終日に全ての方針を採択し、新執行部体制及びスト権を確立しました。最後に角田委員長の発声で団結がんばろうを三唱し、大会を終えました。(※定期大会の詳細は建交労雑誌版10月号に掲載されます。)